

課題を乗り越え、同窓会活動の持続的発展をめざす

今村昭文 (高24回 在京飯田高校同窓会会長)

昨年11月の在京飯田高校同窓会総会で、会長に選任されました今村です。先ずは、『稲穂』第21号が発刊出来ましたことにつき、原稿のご寄稿、広告、サポーター等による資金面でのご支援、そして編集委員の皆様へ感謝申し上げます。

さて、在京同窓会は昭和28年に創立され、昨年は70周年とのこと、奇しくも同年は私の生まれた年にあたります。70年の間には、様々な出来事があったと思いますが、4年前の1月に初めて国内感染が確認された新型コロナウイルスの流行により、総会の開催を含め同窓会活動が大きな制約を受けたことは、在京同窓会にとって大きな試練であったと思います。ただ、昨年5月の5類移行を受け、11月1日には高38回生・48回生の企画運営のもと、アルカディア市ヶ谷に208名の会員の参加を得て、久しぶりに飲食を伴う懇親会のある総会を開催することが出来ました。

総会以外の同窓会の行事としては、昨年創立70周年記念として第1回を開催したセミナーを、今年も6月に第2回を開催し、脚本家であり『稲穂』の編集委員や歩こう会の案内役としても活躍いただいた中47回の牧内雪彦大先輩の講演や、その脚本による飯田中学創設期についての講談で大変有意義で楽しい会となりました。また、歩こう会も昨年12月、本年5月と復活し、今後は年2回の実施を予定していますので、総会だけでなく、セミナー、歩こう会にも是非ご参加下さい。

発送費用増大で苦渋の策も…会員の皆様のご協力を

現在の在京飯田高校同窓会には、次のような課題があります。

それは、『稲穂』や総会案内の皆様への送付のための発送費用の値上がりです。この秋の郵便料金の値上げや、これまで利用していたクロネコDM便の廃止により、発送費用が大幅に増加します。『稲穂』は、在京同窓会が誇るべき同窓会誌ですので、少しでも多くの皆様にお届けしたいと考えていますが、皆様からいただく維持会費、寄付では、約3500部の発送を維持することが困難な状況になっています。苦渋の策として、今年度は従来通りの発送をさせていただくこととし、来年度以降は、原則、維持会費をお支払いいただいた方のみ『稲穂』をお送りすることを考えております。このことにつきましては、現在20%強の維持会費の納入率を上げる、会員のメールアドレス取得を推進し、『稲穂』や総会案内の送付にWEBを活用したり、ホームページを充実する等により、『稲穂』を多くの皆様にお読みいただく策を検討中ですが、先ずは、皆様には、維持会費の納入につき、是非、ご協力をお願いいたします。

私自身、在京同窓会に関わったきっかけは、私の叔父（高17回）から誘われ、ほとんど知らない人ばかりの総会に出席したことです。そして現在まで、在京同窓会には大した貢献をすることもできませんでしたが、同窓会に参加してきたことにより、同期だけで無く、多くの先輩、後輩の皆様との交流の機会を持つことができました。その意味で、在京同窓会の今後の方針としては、先ずは同期の集まりを積極的に行っていただき、同期が誘い合って同窓会活動に参加して貰うとともに、WEB利用による会への参加を推進したいと考えております。幸い、在京同窓会には、総会の幹事学年を1期ずつ下げていくという優れた制度があります。幹事学年が終わったら、会への参加も終わってしまうことの無いようにしていくことも課題の一つと考えています。

私も、松原秀幸前会長による「同窓会を、絆を深め楽しむ場とする」という方針を引き継ぎ、少しでも多くの会員が、同窓会への参加に意義を見いだしていただけるよう役員の皆さんには大いに活躍していただき、私はその潤滑油としての役割を果たしたいと考えております。どうぞよろしく願いいたします。

●いまむら・あきふみ

飯田市時又出身。緑ヶ丘中学校。飯田高校では合唱班。一橋大学法学部卒。弁護士、企業の社外役員。趣味はテニス、ヴァイオリン演奏（大学ではオーケストラ部。その後市民オケを経て、現在は法曹オーケストラに所属）

